

平成28年度 金沢大学附属小学校学校自己評価結果

学校目標 本校の特殊性と児童の実態に即し、変化する社会を生き抜く力と、豊かな社会の形成者としての資質の基礎を育成する
 ◇豊かな人間性を醸成する（徳）
 ◇自ら学ぶ生涯学習の基盤をつくる（智）
 ◇たくましく生きる心や体を育てる（体）

目指す児童像 ○進んで学ぶ子ども
 ○やりとおす子ども
 ○みんなのことを考える子ども

項目	番号	28年度 評価観点	評価	今後に向けての改善策
①組織の活性化	1	各主任、教職員一人一人が、学校運営に関わっているという意識を持ち、校務分掌に取り組んでいる。	A	
	2	学年は、学年主任を中心に学年の共通理解を図り、学級経営案に基づき学級経営に取り組んでいる。	A	
	3	学級担任及び各部の担当は、適切、迅速な「報告・連絡・相談」に心がけている。	A	
	4	児童理解及び支援を要する児童に関して、学校全体で支援する体制を進めている。	B	情報の共有（同学年、他学年間）、特別支援委員会の設置、定期的な検討会の実施 児童理解の会、教育相談体制の充実
	5	生徒指導上の問題で、生徒指導主事への連絡を確実にしながら、全職員が目育てている。	B	生徒指導主事への報告を確実に行う 全職員への周知徹底 積極的生徒指導の推進
②授業の充実・指導力の向上・家庭や地域との連携	6	学習規律の定着を図るため、学年で互いに検討をしながら共通実践をしている。	B	学年での決まりを級外でもできるよう連携の強化 学校全体で学習規律をそろえるところを確認、徹底する
	7	子ども達が、休み時間に次の授業の準備をするように指導している。	A	
	8	学校研究に基づいて、『考える子を育て』ための授業実践をしている。	A	
	9	アクティブラーニングを意識した主体的・協働的な学習に取り組んでいる。	B	
	10	子ども一人一人の学力や学習状況を把握し、個に応じた指導を進めるために、授業の改善・充実を図っている。	A	
	11	児童が意欲をもって取り組むような学習課題作りをしている。	A	
	12	家庭学習の定着のために家庭の協力を求めながら進めている。	B	
	13	保護者からの話丁寧に耳を傾け、迅速丁寧な対応に心がけている。	A	
	14	子どもたちは、「あのね」「あしあと」「あゆみ」をしっかりと書いている。	B	
	15	「あのね」「あしあと」「あゆみ」にしっかりとコメントを書き返している。	B	
	16	自己の反省と改善に役立ていけるように、週案の活用を進め定期的に管理職に提出している。	B	
	17	児童の作品や掲示物・ノート等に目を通し、コメントを書いている。	B	
	18	地域の素材や人材を活用し、体験的な学習を組み立て、探求心や実践的な行動力を伸ばしている。	D	
19	子ども達は、話し方、聴き方のスキルを意識し、自分の思いや考えを、相手に分かりやすく表現する力がついてきている。	B	教師が聴き方のスキルを磨く必要がある	
③生徒指導の充実	20	子どもたちに、あいさつ・バスマナー・生活のきまり（廊下の歩行、時間、服装、持ち物など）を継続的に指導している。	A	
	21	子どもたちは、あいさつができています。	B	徐々に良くなってきているので、職員が一丸となって取り組む 心を育てる取り組みが必要
	22	子どもたちは、バスマナーを守っている。	C	生徒指導部が実際にバスに乗って指導する 意図的にプラスの声かけ 実態の把握、実態に応じた対応 保護者に実態を知ってもらうために通学指導の内容を周知する
23	子どもたちは、生活のきまり（廊下の歩行、時間、服装、持ち物など）を守っている。	C	全職員で同じ指導をすることを徹底 職員の意識改革 毎月クラスで振り返りを行う 意図的にプラスの声かけ 全校集会等での継続指導 個別指導を継続する	
④体力向上の取組	24	学校全体で体力向上の取組を行っている。（なわとび・マラソン等）	A	
	25	クラスで運動ファイル（運動カード）を活用している。	C	活用方法について共通理解していく 活用しやすいように使用例を提示 マラソン・縄跳び運動などで活用する
	26	子どもたちは、体力を向上させようと意欲的に取り組んでいる。	B	

⑤ 読書教育	27	子どもたちに読書の楽しさや大切さを指導している。	B	国語の時間の活用 まずは本を大切に扱う指導を
	28	子どもたちは、様々な本に対して興味を持ち、進んで読書をする姿が多く見られる。	B	子ども図書館等の利用
⑥ 校 園 間 の 連 携	29	子どもたちが力をつけるために、幼小間で連携・協力をしている。	D	
	30	子どもたちが力をつけるために、小中学校間で連携・協力をしている。	D	連携委員会の設置と定期的な情報交換 相互授業参観 9年間で統一した指導ができるよう小中で確認する。 まずは高学年から取り組む。
	31	小中学校間の教職員が学び合い、指導法の工夫・改善や児童理解の深まりが見られる。	D	中学校との連携により教科の専門性を高める 相互授業参観 幼・小・中・高で年ごとに授業参観を行う
	32	学習規律について小中学校間で共通理解・実践している	D	学校園の生徒指導担当者会議の充実 小中で共通実践できることを行う 実践していることについての提案をする
⑥ 道 徳 教 育	33	道徳の授業の充実を図り、豊かな人間性を育むとともに、実践力を育てようとしている。	B	
	34	道徳の授業を中心とした「心の教育」を積極的に行っている。	B	
⑦ 学 級 経 営 の 充 実	35	子どもたちとの触れあいや学び合いを工夫し、めざす学級像に近づくように努力している。	A	
	36	学習の流れや足跡がわかるような掲示物に心がけ、教室内外が整理整頓されている。	C	学習履歴の掲示を推進する
	37	子どもがそれぞれのよさを見出し、何でも話し合える和やかな温かい学級作りをめざしている。	A	
⑧ 適 切 な 教 育 課 程 の 実 施	38	学習指導要領、附属カリキュラム等に基づいた教育課程の実践を進めている。	A	
	39	個に応じた繰り返し指導や補足的・発展的な学習を加えたきめ細かな指導を進めている。	B	
	40	学習の進捗について計画的に実施し、学年間で時数の確認を行っている。	B	週ごと、月ごとに学年で確認する
⑨ 開 か れ た 学 校	41	学年、学級だよりを配布し、教育方針や考え方、学習・生活の様子を伝え、理解、協力を得るようにしている。	B	
	42	ホームページを活用して学年・学級の様子を伝えている。	C	学年行事をUPしていく